

聞く力、つなぐ力

3.11東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち

刊行記念シンポジウム

私たちは被災地とどうつながりつづけるか

[日時] 5月17日(水)16:20~19:50(開場:16:00)

[参加費] 無料

[場所] 東京農業大学世田谷キャンパス 1号館112教室

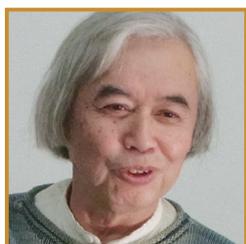
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

第1部 16:20~17:50

対談 宇根 豊×山下祐介

「農業現場に寄り添いつづける」とは

司会:岩元明久(日本農業普及学会副会長)



宇根 豊◎1950年生まれ。
農と自然の研究所代表。著書『愛国心と愛郷心』、『農本主義のすすめ』、『人間が知らない田んぼの世界 生きものの語り』ほか多数



古川 勉◎1955年生まれ。
元大船渡農業改良普及センター所長。著書『3・11 私のアーカイブ——東日本大震災津波から1年の記録』ほか

第2部 18:20~19:50

報告「東日本大震災被災地の農業復興はいま」

山下祐介、古川 勉、行友 弥

司会:宇根 豊



山下祐介◎1969年生まれ。
首都大学東京准教授。著書『「復興」が奪う地域の未来』、『人間なき復興』、『東北発の震災論』ほか多数



行友 弥◎1960年生まれ。
農林中金総合研究所特任研究員。日本大学非常勤講師。元毎日新聞編集委員。著書『東日本大震災 農業復興はどこまで進んだか』(共著)

- *——東日本大震災から6年が経過し、復興は「加速化」されている。農業現場の復旧・復興もその例外ではない。そこには、農業現場に踏みとどまる農家とそれに寄り添う人々の苦闘の日々があるが、現場から離れて暮らす私たちにはそれがなかなか見えてこない。
- *——被災地の農業現場で活動する普及指導員からの聞き書きをもとに編集刊行した『聞く力、つなぐ力——3.11東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち』(農文協)を抛りどころに、普及指導員が農業・農村の復興に果たす役割を再確認するとともに、私たちの日々を顧みたい。

[共 催] 日本農業普及学会、東京農業大学

[協 賛] 株式会社農文協プロダクション、一般社団法人農山漁村文化協会、一般社団法人農業者ネットワーク、東京農業大学総合研究所研究会

[参加申込み] 日本農業普及学会ホームページから申し込み下さい

http://www.jadea.jp/gakkai/sub04_1.htm

※東京農業大学の学生、教職員、総研研究会会員は申込み不要



聞く力、つなぐ力

3.11東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち

日本農業普及学会 編著 古川勉・行友弥・山下祐一・宇根豊 著
農文協プロダクション発行 農文協発売 四六判 252頁 2,200円+税

家族、田畑、故郷などあたりまえの世界が失われた東日本大震災。地震、津波そして福島第一原発の深刻事故に直面するなか、普及指導員たちは懸命に被災農家に寄り添いつづける。彼らの「力」の源は何なのか。そして普及指導員の役割とは。岩手、宮城、福島三県の普及指導員への聞き書きとともに、山下祐介、宇根豊らの論考も収録。

【目次より】

はじめに 佐藤了 日本農業普及学会会長

聞き書き 東日本大震災と普及指導員

岩手県 大船渡農業改良普及センター

- ・震災直後の混乱のなかで
- ・「災害復興営農対策会議」の果たした役割
- ・情報の共有と職員のメンタル面への配慮
- ・被災農業者の「聞き手になる」こと
- ・立ち上げられた「希望ときずな農業チーム」
- ・正確な情報を伝えることが求められた福島第一原発事故
- ・県を越えた協力
- ・ストレスにどう向き合ったか
- ・震災の経験をどう生かすか

宮城県 石巻農業改良普及センター

- ・合同庁舎が津波被災、業務不能の状態に
- ・当初の記録は紙、鉛筆、携帯だけ
- ・現地調査から農地の復旧へ
- ・法人化、大規模化を軸にすすめられた農業・農村復興
- ・情報不足に苦慮した放射能対策
- ・他県からの技術支援に感謝
- ・被災した農家とどう向き合ったか
- ・普及指導員がうけたさまざまなストレス
- ・災害対策で重要なのは平時からの準備
- ・現場とのつながりが普及を支える

宮城県 仙台・亘理農業改良普及センター

- ・安否確認・農地の被害調査から始まった情報収集
- ・苦しさや向き合いながら農家の聞き手になる
- ・普及のノウハウと関係機関の連携を生かした復興

- ・放射能対策はサンプリング調査と吸収抑制技術の普及が中心
- ・復旧・復興の経験をどう生かすか

福島県 県北農林事務所伊達農業普及所

- ・原発事故への対応がすべてのはじまり
- ・関係機関との連携のもと整備される検査体制
- ・不安の渦中にある農家にどう寄り添うか
- ・施設園芸を中心にした農業復興
- ・研究機関との連携で進められた放射性物質対策
- ・風評被害に耐える
- ・農政事務所からの支援や普及所間の協力
- ・危機のなかでつかんだ「普及」の意味

福島県 相双農林事務所農業振興普及部

- ・安否確認のなか高まる原発事故への危機感
- ・農家の不安と怒りに向き合う
- ・農家の意向を重視し現場の取組みを支援
- ・現場とのつながりを生かした放射能汚染対策
- ・震災から四年半経過後の課題
- ・「農家とともに」の再確認

危機のなかで起ち上がった普及指導員たち

- ・前例や枠組みにとらわれない普及活動を
古川 勉(元大船渡農業改良普及センター所長)
- ・寄り添う、支える、ともに歩む
—被災地における普及指導員の役割
行友 弥(農中総研/元毎日新聞編集委員)
- ・農の持続性は誰のために、誰の努力で支えられるのか
山下祐介(首都大学東京准教授、社会学)
- ・内からのまなざしの大切さ
—普及指導員の独自の世界が示された
宇根 豊(農と自然の研究所代表)

注文専用 FAX.03-3585-3668 (農文協普及局行き)

書名	聞く力、つなぐ力		ISBN 978-4-540-16178-0	
	3.11東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち		2,200円+税	
お名前				
住所	〒			
電話		E-mail		冊